県立西脇北高等学校　　令和5年度学校評価

教育目標	教育方針
予測困難な時代の中にあって、変化に対応することで豊かな人生を送るための「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな身体」を身につけさせ、自立して生きられる力を育む。 自己評価について 達成度　80%以上　A　　65%以上　B　　45%以上　C　　30%以上　D　　30%未満　E	地域ボランティア活動や災害ボランティアによって、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着と人間関係スキルの習得とを充実させることで、自信と誇りを身につけさせ、生徒一人一人の将来像の発見と実現に結びつける。

番号	分掌	重点目標（評価項目）	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1	総務部	円滑で効率的な校務運営	① TeamsなどICTの活用を進め、職員の情報共有をよりスムーズにする。 ② 1～3部のすべての生徒、全職員の意思疎通を図り、学校行事は可能な限り一斉に行う。 ③ 全職員がICT機器の活用機会を増やし、集会や行事等のわかりやすさと効率化を促進する。	A	①達成　職員打ち合わせ、日常の連絡、アンケートなど効率的に使用できた。今後も各部署ごとの連絡やチャット機能など活用の幅を広げていきたい。 ②おおむね達成　学校行事は概ね予定通り実施できた。しかし行事の実施形態について、1～3部全員参加の行事については実施形態や実施時間帯について、検討する必要がある。また、12部と勤務時間が異なる3部職員の連絡についても、より効果的な方法を模索していく。 ③達成　サテライト集会の実施もスムーズに行えるようになってきた。今後は全職員が機材を扱えるようにすることが課題である。	・1～3部すべての生徒職員が一斉に活動を行えるのは、コミュニケーションの観点からもよりよい活動ができるものと思い、その成果を期待します。 ・ホームページは色々な活動や頑張りが分かり、見やすくなっているが、「多部制」としての学校の様子が見えてこない。生徒の様子や生の声、メリットやデメリット、またそれを補う部分など入れて欲しい。 ・ボランティアに限らず、他の部活動の情報などの発信も期待したい。
2		広報活動の推進	① オープン・ハイスクールや学校説明会を通じ、本校の教育の特色や校内外での生徒の活動内容を説明する。 ② ホームページを適宜更新し、本校生の活動の様子を広報する。 ③ 毎月西北NEWSを発行し、学校行事やボランティア・部活動など本校の取り組みを近隣中学校に紹介する。	A	①達成 オープン・ハイスクールや学校説明会を予定通り実施できた。新しく作成した学校案内動画も好評であった。 ②やや課題あり　ホームページでの情報発信が活動時期から遅れたり、紹介できなかったりすることがあった。全職員がいつでも本校生の活動をアピールできるようにしていく必要がある。 ③達成　毎月の発行に加え、体育祭や文化祭の号外も作成できた。今後も中学生に本校の取り組みを紹介していきたい。	
3		育友会や地域・行政等との連携	① 育友会や地域の方々との積極的な交流と連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。 ② 西脇市の協力を得て、杉原川CRP（クリーンリバープロジェクト）を実施し、地域交流や地域貢献に努める。 ③ 本校の活動状況に対する地域や同窓生からの意見を広く受け入れられる体制を整える。	A	①おおむね達成　文化祭や体育祭は多くの保護者の方に来ていただくことができた。またボランティア・防災部と連携し、生徒が校内外でワークショップを開催し活動する機会を増やしていきたい。 ②やや課題あり　1部の杉原川CRPは、雨天のために中止となった。来年度はボランティア・防災部のクリーンキャンペーンと統合して実施の予定である。次年度以降はボランティア部の活動と連携し、地域貢献を図っていきたい。 ③やや課題あり　学校の様子をこまめに案内できるように全職員がホームページを更新し、生徒の活動を同窓生や地域の方々に伝えられるようにしていきたい。	
4	教務部	多部制・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	①所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法（高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修）を展開する。 ②生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用を行う。	A	①達成　次年度も継続する。 ②達成　3卒の希望を叶えるために、自由選択授業に学校設定科目を多く取り入れている。4卒の生徒も、希望進路に応じて選択することが可能。	・生徒一人一人を理解するために寄り添い、様々な研修を受け、多様な生徒たちに対応される先生方に感謝します。 ・タブレット端末は生徒にとっては容易であると思う。時代に合った教育を進めてほしい。 ・少なからず退学者がおられることは残念に思います。少しでも減少することを願っています。 ・多種多様にわたる特別非常勤講師の活用は大変よい取組であり、今後も是非継続してください。 ・多部制・単位制の授業は生徒自らが選択するため、意欲をもって取り組めるのではないかと思う。
5		質の良い授業の実施	①シラバスの作成と一般公開（ホームページに掲載） ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ③オープンスクール（授業公開）を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。	A	①達成　次年度も継続する。 ②おおむね達成　すべての生徒にとってわかりやすい授業にするために、授業のユニバーサルデザイン化を学校全体として取り組んだ。 ③おおむね達成 「ICTの効果的な活用」をテーマにオープンスクールを2回実施した。教科の枠を超えて授業見学をする体制になっており、教員同士お互いに刺激しあいながら、授業力の向上に取り組んでいる。	
6		学習指導の効果を高める取組	①習熟度別クラス（国・英）、少人数クラス、複数教員による指導（チーム・ティーチング）等を効果的に活用する。 ②学校設定教科「コーピング」で習得した学習スキルを活用する生徒の割合を40%とする。 ③独自検定「北高検定」の5級以上認定者の割合を50%とする。 ④独自検定「北高検定」にむけた自主学習に取り組む生徒の割合を35%とする。	B	①達成　次年度も継続する。 ②おおむね達成　チェックペンを使った記憶法、イメージ法、ストーリー法などさまざまな学習スキルを学んだ。外部教材を取り入れ、タブレット端末も使いつつ各自のペースで学習を進めた。年度末に生徒アンケートを実施する予定。 ③おおむね達成　5級以上認定者の割合は、国語62.8%(昨年度70.1%)、社会67.3%(同58.6%)、数学42.6%(同42.1%)、理科68.8%(同68.9%)、英語43.1%(同50.9%)であった。 ④達成　生徒アンケートで、「検定前にテキストを使って自分で勉強した」と回答した生徒は41.0%（昨年度46.4%）、「検定後、解けなかった問題等を復習した」と回答した生徒は36.1%（同39.3%）であった。来年度も、検定の予習の仕方や間違った問題の復習の仕方を学ぶ授業をおこなって、自主的に学習に取り組む生徒の割合を高めたい。	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	① 授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底 ② 時間の厳守、あいさつの励行を推進するため、あいさつ運動を年2回実施する。 ③ 生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢の確立	A	①授業開始の起立と礼の指導を行い、ONとOFFの切り替えを徹底した。また、授業中に帽子や防寒具を着用している生徒へのマナー指導を行い授業態度やマナーの改善を図った。 授業態度の改善はまだまだ必要であり、授業態度の悪い生徒への対応をどのように改善し工夫していくかが課題である。 ②挨拶運動は予定通り実施（4月・11月）できたが、未だ遅刻の多い生徒が多いため、そのような生徒の生活習慣を見直す取組を実施していく必要がある。 ③スマートフォンの長時間使を改善するため、定期的に、長時間利用の弊害について、注意喚起していく。	・学校が落ち着いていると感じる。 ・ボランティア活動は自己有用感や達成感を保有するよい開会である。 ・いじめについては、自分から大人に発信することが難しいと思うので、小さな変化やサインに先生方から働きかけてほしい。 ・いじめ認知件数がなかったことはすばらしいことである。いじめで苦しむ生徒がいない現状を維持してください。 ・不登校はカウンセラーの方との連携を深めていただき、卒業式を体験させてあげてほしい。 ・不登校の生徒には保護者と連携し、生徒が緩やかにでも登校できるようサポートをしていってほしい。 ・部活動について、放送部が制作された語り部活動の映像を拝見しました。実際に生徒の皆さんが語ることでより深く伝わってきました。今後予想される南海トラフ地震に向け、今何をすべきか高校生の力で伝えていただきたいです。 ・放送部作成の動画は、生徒たちが当地の語り部の方からお話を聞いて生徒たちが何かを感じた様子が映し出され、実に心打つ動画だったと思います。
8		生徒の自己有用感・達成感の育成	① ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ② 日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③ 学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が主体的に活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。	A	①ボランティア活動にしっかりと取り組むことが出来た。 ②生徒の達成感も得られた。 ③本校の特色である全員がボランティア部であることを活かし、さらに次年度は自主的な参加を促す取組を考えていきたい。	
9		他人を思いやる心の育成	①いじめの積極的認知に努め、いじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。また、いじめが確認されたときは、年次だけで指導をするのではなく、学校全体で組織的に取り組む。 ②生徒の些細な変化にも反応できるよう、生徒とのかかわる時間を増やす。 ③校内外巡回を定期的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。	A	①積極的ないじめ認知を行う為に、年3回のいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に務めた。 ②③4月に面談ウィークを設定し、生徒と教職員との結びつきを強めた。また、校内外の巡回を通して、生徒と教職員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の些細な悩みや行動の変化に気づくことができ、未然に事故の防止に繋げられることが多くなった。	
10	進路指導部	インターンシップ・応募前企業見学の活用・充実	① インターンシップおよび応募前企業見学は、原則1日で実施する。 ② 応募前企業見学については、一人2社まで必ず行かせ、ミスマッチを防止する。 ③ キャリア教育としての、インターシップと応募前企業見学への参加率100%達成を目指す。	A	①③就職希望者全員に対して、夏季休業中にインターンシップを実施した。 ②③応募前企業見学についても、2社だけでなく応募する企業すべてに見学するように指導し、おこなった。	・求人件数の多さに驚いた。 ・就職・進学のどちらにもきちんと向き合って指導されていると感じる ・卒業後の進路未定者の去就が気になります。誰しも自分の思い通りの仕事に就職しているとは限らないのが現実ですので、卒業後に何か目的をもてるようなご指導を望みます。 ・インターンシップや応募前企業見学の充実により、就職活動が積極的に出来ていると思われる。ぜひ続けてほしい。 ・商業関係の検定は就職や就業において役立つので、積極的に取り組んでほしい。
11		上級学校企業見学会ならびに進路ガイダンス・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	① 魅力アップ推進事業を活用し、大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ② 進路ホームルーム計画に基づき、キャリア教育を深化させる。 ③ 各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組む姿勢の向上を図る。 ④「夏季補習」や「総合的な探究の時間」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学･就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	①②③④6月に進路ガイダンスを行い、7月に大学・企業見学をおこなった。就職希望者には、8月に就職ガイダンスをおこなうことで、就職に対する意識づけをした。 ③④総合的な探究の時間、キャリア学習ウィークを活用して計画的な進路指導がおこなえた。	
12		ハローワークや企業との連携強化	① キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演会を開催する。 ② JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率100%を達成する。	B	①8月の就職ガイダンスでは、ハローワークに紹介していただいた講師の方に、就職についての心構えや面接練習をしていただいた。3月のキャリア学習ウィークでは、ハローワークの職員に来ていただき、就職にむけての準備や求人票の見方などの講話をしていただく予定である。 ②JOBフェアに参加し、職業体験セミナー等を開催した。	
13		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	① 各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒にも促し、企業の要望に応えるようにする。	B	①商業関係の検定をはじめ、資格・検定をできるだけ受験するように促した。	
14		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	① 就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10%以内達成を目指す。	A	①残念ながら、今年度は3名の離職を確認している。しかし、離職率3.4%と現時点で10%を下回っている。	

県立西脇北高等学校　　令和5年度学校評価

番号	分掌	重点目標（評価項目）	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
15	保健部	保健安全管理・生徒の健康管理の充実	① 全校生を対象に健康相談を実施し、継続的な保健管理及び保健指導を行う。 ② 学校医と連携し、健康診断で異常がみられた生徒の再受診を徹底する。 ③ カウンセリングを活用し、精神面での生徒支援につなげる。 ④ 安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。 ⑤ 生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修（アレルギー・救急法・カウンセリングマインド）を計画的に実施する。	A	①全校生を対象に保健管理及び保健指導は継続的に行えた。 ②健康診断で異常が見つかった生徒への再受診は徹底できなかった。 ③必要な生徒へのカウンセリングの活用は生徒支援につながった。 ④計画的な安全点検のおかげで、安全な教育環境が維持できた。 ⑤生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修も例年通り実施できた。	・多部制のため、また生活習慣の乱れから朝食抜きの生徒が多いと思われる中での食育指導は難しいと思われる。親への発信も必要と感じる。 ・睡眠と朝食を摂るようにご指導ください。
16		生徒が抱える保健課題に組織的に対応する	① 生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決に努める。 ② 各生徒が抱える健康課題に応じて、関係する先生方と情報共有し、改善に努める。	A	①コロナやインフルエンザなどの感染症に対する対策や危険を予測できるようにその都度、適切な情報を生徒に発信できた。 ②生徒が抱える健康課題に対して、関係する先生方と情報を共有し、組織的に改善に努めることができた。	
17	特別支援教育部	特別支援教育の充実	① 実態の把握（療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握や、中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップし、職員全体で共通理解をする。 ② 支援の必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図る。 ③ 生徒本人と保護者と連携を図り個別の教育支援計画を作成する。 ④ 適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①②③④とも、取組内容通りに実施することができている。今後についても継続していく。	・高校卒業後の進路について、学校が進路先とも連携できるように尽力されており、大変ありがたい。これが生徒の主体性につながっていくことを期待したい。
18		支援が必要と思われる生徒に対しての進学・就労支援	① 中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得る。 ② 専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施する。 ③ 就職希望者で職業評価を希望する生徒には、ハローワークに職業評価を申し込み、その結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ④ 高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように、自ら困難さがわかり、必要な場面でサポートを求める。サポートの必要性がある場合に、説明する相手を選び、そして、伝えることができるように、将来社会に出てから困難さが少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①今年度も密に連携することができた。 ②今年度は、職員研修会を2回実施し、支援を必要とする実事例を検討することで、具体的な生徒への対応方法についての研修もあり、職員の専門性向上に繋げることができた。 ③年次や進路指導部と連携しながら、職業評価を希望する生徒について対応した。 ④通級の指導には一昨年度より8名の担当者が配置され、より幅広い授業展開ができるようになっている。次年度も工夫を重ね取り組んでいきたい。課題として、受講生徒が多いため、個々の多様性に対応するために多くの職員が指導できる支援体制を作ることがあげられる。	
19	ボランティア・防災部	地域ボランティアおよび生徒の自主的な活動の円滑な実施	① Google classroomなどを用い、ボランティア活動の周知を行う。その結果として一人でも多くの生徒がボランティアに参加できるようにする。 ② 播州織をつかったワークショップを行うなど、地域に寄り添った活動を行う。	A	①Google classroomの連絡をチェックしている生徒が固定化されており、ボランティア活動に興味のない生徒は、案内を確認していない傾向にある。参加者の連絡手段としては有効に活用することができた。 ②今年度は7つのワークショップを企画し、学校や地域イベントにて活動することができた。大変多くの参加者があった。	・年明け早々に被災地への募金活動が行われたことに感心した。被災地に出向くことができなくても、自分にできることを考えることが大事だと思う。 ・ボランティアの西脇北高校のイメージが強かったのですが、地域住民との交流も重要と思います。御校の活動や、公民館活動にも参加・協力したいと思います。 ・様々な機会で生徒たちがどんどん地域に出て活躍されていることが素晴らしいと思います。被災地のボランティア活動は参加された生徒の皆さんの成長に役立っていると思いますので、特色ある取り組みを安全に考慮しながら続けていかれることを望みます。 ・毎年行われている1.17追悼行事は生徒、保護者、学校、地域にとって忘れてはいけない、後々まで伝え残していく意味で大切な行事であると思う。
20		災害支援ボランティア活動への積極的参加および防災意識の向上	① 災害支援のボランティア活動や募金活動を積極的に行う。 ② 防災ジュニアリーダー学習会に参加し、防災に対する意識を高める。	A	①西脇から支援に駆けつけられる活動がなく、今年度は災害支援ボランティアの実績は無い。しかしながら、地元の環境整備などの活動に力を入れ、身近な防災活動を実施することができた。 ②防災ジュニアリーダー学習会に参加することにより、学校間の連携が生まれ、他校と協力して防災学習を実施することができた。	
21		1.17を風化させない活動の実施	① 防災について地域住民と共に考える機会を設け、震災学習で学んだ知識を伝える活動を行う。	B	①年に2回の防災学習ワークショップを実施し、地域住民とともに災害に対する備えを学習るることができた。また、語り部活動を継続し、市民に対して啓発活動ができた。	
22	人権・図書部	生徒が自分自身を大切にする	① 地域貢献活動やボランティア活動等の体験を通じて、自己有用感を養う。	B	①クリーンキャンペーンや河川の清掃をはじめ、地域の様々な要請に応じてボランティアに参加し、地域とのつながりを持てた。地域の人から温かい声かけもあり、人の役に立つ経験を持てた。次年度も、参加を勧めていきたい。	・聴覚障害者の方々による講演会での生徒たちの反応について、どのようなことを感じたのかをもっと様子を聞きたかった。 ・町中でゴミ拾いをしているところを見ることがあります。皆一生懸命頑張っているなと思って見ています。また地域とボランティアなどを通じてつながりを持てたことはコミュニケーション力、人に対しての優しさを学んだのではないでしょうか。
23		生徒が生命の尊さを実感する	① 授業や特別活動など、あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にする姿勢を育む。	A	①各教科の授業や体育祭・文化祭といった行事の中で、自他の健康やいのちを大切にする意識を育むことができた。次年度でもさらに継続していきたい。	
24		人権尊重の基礎を形成する	①「人権を学ぶ日」やホームルーム活動を通して、あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	B	①今年度は「障害者と人権」をテーマに「人権を学ぶ日」を実施した。高齢社会を生きていく上でも聴覚障害と人権を考えるよい機会となった。次年度も新しい人権課題に取り組みたい。	
25		図書室の読書環境を整備する	①生徒のニーズを反映した書籍を購入する。 ②生徒が本を探しやすいように適切に整理・配架する。 ③図書室の美化に努め、明るい雰囲気作りに努める。	B	①達成　今年も図書アンケートを全生徒、全職員から集め、希望図書の選考と配置を実施した。 ②③達成　図書室を落ち着いた空間として維持するため、美化や整備に努めた。	・図書室で過ごすのが好きであった自分のことを振り返り、図書室が会議場所になってしまっていることが残念である。 ・図書室での活動が、将来のモノが言える大人、モノを聞く大人になるための機会であってほしい。
26		図書室の活用や読書活動を推進する	①図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持つような情報を提供する。 ②「ビブリオバトル」を開催し、生徒の図書室利用を活性化する。 ③「ボードゲームデー」「レファレンス大会」を実施するなど、生徒が親しみの持てる空間とする。	A	①達成　図書便りを定期的に発行し、行事の報告、読書体験の報告、その他の広報に努めた。 ②③達成　ビブリオバトル、ボードゲーム、ライブラリーカフェなどの行事をすべて実施し、図書室の活用を進めた。次年度もさらに活用を進めたい。	
27	心のサポート委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	① 6月花いっぱい運動での花の育成を行う。 ② 災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。	A	①② 積極的に取り組むことが出来た。	・生徒たちが今しかできないことに挑戦する心を育成してください。社会福祉協議会との連携してはどうでしょうか。 ・様々な状況により不登校生徒が一定数いるようであるが、学校、行政、家庭が一体となって生徒へのケアに努めてほしいと思う。
28		生徒と教員の交流機会を創造する	① 学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ② 各部の連携と北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	A	①② 4月に面談ウィークを設け、複数の教員が生徒と面談する機会を設けるなど、生徒と教員の距離感が上手く取れている。さらに生徒理解を深め保護者とも連携しながら、生徒把握を深めていきたい。	
29		外部機関との間に交流機会を創造する	①「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用する。 ②各学年、各部と情報共有と共通理解を図り、必要に応じては外部機関と連携を取る。 ③ 職員研修会において講演会を実施する。	A	① 9月に1年次を対象とした自殺予防LHRを2週にわたり実施するなど、プログラムを活用できた。 ② 生徒指導部会で生徒の情報交換を行い。各年次との連携を密にすることができた。命に係わる問題が起った時には、外部連携し、ケース会議を行った。保護者とも連携を取り、時間をかけながらしっかりと生徒対応することができている。 ③ 職員研修会を2回実施した。	
30	教育情報ネットワーク・システム管理担当	ICTを利用した授業づくりの推進	①特別教室でタブレットとクラウドを使った授業展開できるように、環境を整える。 ②全教科がタブレットを用いて授業展開できるように、研修を充実させる。	A	①達成　環境整備はできた。突発的なICTトラブルに対応できる教員が増加してきた。 ②おおむね達成　全体研修はできなかったが、教員間で実践事例を共有し、全教員がタブレットを用いて授業出来るようになってきた。	・ICT機器の活用を進められているところは時代に合っていると感じた。
31		オンラインシステムを活用した円滑な学校運営	①学校から離れた場所でも職員間で情報共有できる環境を整える。 ②生徒と学校が双方に情報交換できる環境を整える。	B	①達成　TEAMSやOBS配信の利用 ②達成　Classroomや学校HPの利用 次年度も継続してく。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	① 光熱水費の適切な使用 ② 紙の使用量の削減 ③ 環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用	A	①こまめに空調の電源を入り切りしたり使用場所を細かく限定することにより、無駄のない適切な使用をすることができた。 ②裏紙を再利用するなど、使用量の削減に努めた。 ③環境配慮型製品を選んで購入し、環境負荷軽減に努めた。 引き続き環境負荷の軽減に取り組む。	・いつも丁寧に、気持ちの良い接遇をしていただき、感謝しております。
33		施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	① 施設・設備の定期的な安全点検及び整備 ② 樹木の剪定等の美化の推進 ③未来を担う高校生等の部活動等応援事業の有効活用	A	①定期的に安全点検を実施するとともに、予算執行が可能な範囲内で整備を行った。 ②スズメバチ等害虫駆除、樹木の剪定を行うなど、校内環境の整備・美化に努めた。 引き続き校内環境の充実を図る。 ③サッカーゴール等を購入し部活動の充実を推進した。	
34		接遇の推進	① 来校者への挨拶及び丁寧な窓口応対 ② 自動電話導入に伴う適切な電話応対	A	①②明るく、良い接遇が実践できた。 引き続き接遇の向上に努める。	